
緊張と緩和の末に・・・

ぱじゃまくんくん男

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

緊張と緩和の末に・・・

【Nコード】

N6458I

【作者名】

ぱじゃまくんくん男

【あらすじ】

私は便器に座り、緊張と緩和の末に、あるものを見た。

(前書き)

ストレートに下品です。下ネタに不快感を覚える方や、食事中の人は読まないでください。

その日、確かに私は、用をたしていなかった。

ずいぶんと、たまったものだ。

突っ張った胃腸をさすりながら、私はゆっくりと便座に腰かける。

さあ、一思いにやってやろうかと、胸の中で呟きながら、肛門を解放し、腹部に力を込める。

ところがである。

肛門の辺りで排泄物が詰まる。

こんなとき、慎重にならなければいけない。早急に用を済ませたいばかりに、ただただ勢いに任せて排泄してしまうと、あの、恐ろしい「切れ痔」になってしまう。

それだけは避けたい。ゆっくりと、ゆっくりと、赤子を湯船に浸からせるようにして、優しく排泄していかねければならない。

さあ、出す。

ゆっくりと出していく。

しかし、まだある。硬いものが肛門の付近にまだある。

はて、と、思い、肛門を一度締めてはみるが、切れない。

じゃあ、緩めてみる。出していく。力を込め、あるいは息を吐き、出していく。

こうなると、緊張と緩和の連続だ。むしろ、闘争に近い。私と、排泄物の駆け引きである。

そうして、五分ほど、闘っただろうか。排泄物は切れ、肛門はすっきりとした。

勝利した私であったが、不安もあった。

どんな排泄物が私の胃腸の中に詰まっていたものか。

私ぐらいの年齢にもなると、体の中には気をつかわなくてはならない。

私は腰を上げ、便器の中を見た。

私は目を疑った。

そこには巨大な一本グソが、なみなみと浸かっているではないか。

なんていうことだろう。私は大いに悔やんだ。こんな素晴らしい一本グソをするのであれば、ちっぴけな便器の中には排泄せず、大きな野原に腰を屈め、とぐろを巻かせたというのに。

次にこんな立派な排泄物を生み出すのはいつのことになるだろうな。

私はレバーを引き、一本グソが便器の奥へと飲み込まれていくさまを泣く泣く眺めていた。

(後書き)

バカバカしいことを書いてみたかったので、書きちゃいました^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6458i/>

緊張と緩和の末に・・・

2010年10月10日06時51分発行